

【日本の大学】第 67 回——山形大学：自然と共生、地域変革のエンジンに

山形大学は、東北地方の日本海側、山形県にある国立大学である。現在、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部の 6 学部と 6 大学院研究科を備えており、約 9000 人の学生が学んでいる。

設立は第 2 次大戦後の 1949 年だが、その歴史は明治時代の初め 1878 年の山形県師範学校にさかのぼる。戦後、五つの教育機関（山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校、山形県立農林専門学校）を母体に新制大学として設置された。当初は、文理学部、教育学部、工学部、農学部の 4 学部でスタートしている。



小白川キャンパス風景

県全域に 4 キャンパス

本部は県庁所在地の山形市にあるが、キャンパスは県内に広がっており、米沢市、鶴岡市の 3 地区合わせて四つのキャンパスがある。人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部は山形市小白川キャンパスにあり、医学部は飯田キャンパス（山形市）、工学部は米沢キャンパス（米沢市）、農学部は鶴岡キャンパス（鶴岡市）にある。工学部のある米沢市は、江戸時代には伊達・上杉藩ゆかりの城下町だった地であり、古くから養蚕など繊維産業が盛んだ

った。農学部のある鶴岡市は、日本海に近く鳥海山、月山を臨むコメどころの庄内平野の中心地である。各キャンパスは、それぞれの地域の特徴や環境を生かした教育、研究を行っている。

以下、山形大学のホームページなどから、大学の歴史と現況を見ていこう。

大学では三つの使命と五つの基本理念を打ち出している。地域創生、次世代形成、多文化共生が三つの使命であり、五つの基本理念としては、「自然と人間の共生」をテーマに、以下の基本理念に沿って、教育・研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとしてきらりと光る存在感のある大学を目指す、としている。

五つの基本理念とは、「学生教育を中心とする大学創り」「豊かな人間性と高い専門性の育成」「『知』の創造」「地域創生および国際社会との連携」「不断の自己改革」である。

当初設置の4学部のうち、文理学部は1967年に文系学部の人文学部（文学科、経済学科）となり、同時に理学部と教養部も併設された。1980年には人文学部に法学科を設置したが、96年には教養部を廃止するとともに、人文学部を3学科から人間文化学科、総合政策科学科の2学科に改組した。2006年には学科を人間文化学科と法経政策学科に改組している。

2017年には、人文学科を人文社会科学部に改めるとともに、2学科を人文社会科学科1学科とし、その中に人間文化コース、グローバル・スタディーズコース、総合法律コース、地域公共政策コース、経済・マネジメントコースの5コースに切り分けた。専門性を重視しながら、文化や社会科学を幅広く学べる学部にするのが狙い。同時に、社会人として活躍するための基礎的な力（英語、情報・統計・調査能力、実践的課題解決能力）の養成を重視する。新設のグローバル・スタディーズコースでは、国際社会や異文化に関する深い理解力を持つグローバル人材の育成を目的にしており、英語その他の言語（中・独・仏・露）の運用力と、多文化共生に寄与する様々な知識を学んでいく。



人文社会科学部

教育学部は、当初の小学校、中学校の教員養成課程に、特別教科（音楽）教員養成課程（1953年）、養護学校教員養成課程（1965年）、総合教育課程（1992年）が加わったが、1999年には学校教員養成課程、生涯教育課程、人間環境教育課程に改組した。

2005年には、教育学部を地域教育文化学部へと改組し、学科を地域教育学科、文化創造学科、生活総合学科の3学科とした。さらに2012年には、この3学科を地域教育文化学科1学科へと改めている。学科内には八つのコースを設けたが、2017年度入学者からは、児童教育コース（小学校教育プログラム、チャレンジプログラム）と文化創生コース（心身健康支援プログラム、芸術創生プログラム、チャレンジプログラム）の2コース5プログラムを選択していくこととなった。

文・理・医6学部の総合大学に

文理学部の改組によって理学部が誕生したのは、1967年である。数学科、物理学科、化学科、生物学科、共通学科の5学科が設けられた。78年には地球科学科が加わったあと、95年には大幅な改組が行われ、各学科を二つの大講座に再編成するとともに、数学科は数理科学科、化学科は物質生命化学科、地球科学科は地球環境学科に改称した。さらに2017

年には、5 学科制から、理学科 1 学科制となり、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、データサイエンスの六つのコースカリキュラムに再編成した。

工学部の前身は、1910 年に設置された米沢高等工業学校である。米澤藩の時代から盛んだった繊維産業のさらなる発展と人材育成を目的に設立された。高等工業学校は、染色科と応用化学科から始まり、その後、機械科、電気科、通信工学科、工作機械科などを設置した。1944 年に米沢工業専門学校に改称した。

1949 年、山形大学開設とともに工学部として発足した。当初、繊維工学科、応用化学科、機械工学科、電気工学科の 4 学科で始まった。その後、化学工業科、精密工学科、電子工学科、高分子化学科などを増設、大学院工学研究科も 1964 年に設置されている。現在は、数度の学科改組を経て、高分子・有機材料工学科、化学・バイオ工学科、情報・エレクトロニクス学科、機械システム工学科、建築・デザイン学科、システム創成工学科の 6 学科で構成している。



旧米沢高等工業学校本館。明治 43 年に建てられたもの。ルネッサンス様式の美しい木造建築として国の重要文化財に指定されている。

農学部は、大学設立 2 年前にできた県立農林専門学校を受け継いで設置された。農学科と林学科の 2 学科と附属農場、附属演習林とで始まった。その後、農業工学科（1957 年）、農

芸化学科（1964年）、園芸学科（1968年）を設置して5学科となった。1991年には5学科を改組して、3学科に再編するなど、二度の改組再編を経て、2010年には、食料生命環境学科1学科とし、その中に、安全農産物生産学、食農環境マネジメント学、食品・応用生命科学、植物機能開発学、森林科学、水土環境科学という6コースを置いた。さらに、2019年からは、アグリサイエンスコース、バイオサイエンスコース、エコサイエンスコースの3コースに再編している。

農学部では、1年次後期にコースを選択し、2年次からコースに配属される。2年次には、各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだあと、専門分野のより高度な知識の習得を目指す「基幹プログラム」、学んだ理論や技術を生かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」の中から、自分に合ったプログラムを選択して学びを深める。

医学部が設置されたのは、1973年である。一県一医科大学構想の第1期校の一つとして創設された。その後、医学部附属病院の設置（76年）、医学研究科（博士課程）の設置（79年）、看護学科の設置（93年）、医学科の入学定員増などが順次図られた。



附属病院

基盤共通教育に力点

大学では、2017年度から、基盤共通教育と基盤専門教育を連動させた3年一貫の基盤教育プログラムをスタートさせた。基盤力として「学問基盤力」「実践・地域基盤力」「国際基

盤力」の三つを想定し、基盤力テストを実施して、学生の到達・達成度を可視化し、学生自身が自らの学びを振り返ることのできる自己学習力を育む。基盤共通教育は、大学での学びの基本を身につける「導入科目」、「人間」と「共生」、「地域」をテーマに学問的志向性を育む「基幹科目」、学問の多様性を知り、知識の幅を広げる「教養科目」、学問の実践に役立つ知識や能力を修得する「共通科目」という四つのカテゴリで構成されている。全学的に取り入れることによって、山形大学の学生の「人間力」の基盤をつくることを目的にしている。



冬のキャンパス風景

外国人留学生に向けては、日本語科目を設けている。大学教育を受けるために必要な高度な日本語力と、講義理解・専門書読解・レポート作成・口頭発表などを円滑に行うためのスタディスキルを養成している。現代日本社会についての理解を深め、異文化コミュニケーション能力の育成を図るため、教養セミナー（多文化交流）も実施している。各キャンパスにはそれぞれ留学生相談の担当者を置いて対応している。

世界 24 か国・地域の 89 大学・機関と学術交流協定を結んでいる。

在学者数は学部が 7398 名、大学院 1286 名である。(2022 年 5 月現在)

学長は玉手英利（たまた ひでとし）氏である。東北大学理学部卒、同大学修士、博士課程修了、理学博士。山形大学へは、1983年医学部助手として入り、2003年理学部教授、2013年理学部長などを経て2020年4月から現職。専門は哺乳類学である。

日文：滝川 進

写真：山形大学 HP&FaceBook